



一年間のご報告

ANNUAL REPORT

2020-2021



ご挨拶

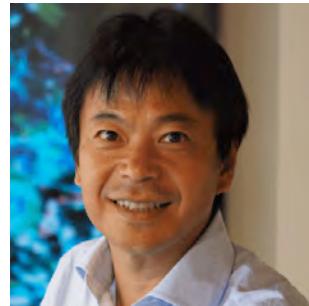


代表理事 小林りん

2020年度は私どもにとって決して忘れられない年となりました。夏になっても外国人留学生の入国制限がいつ緩和されるか定まらず、生徒の多くが学校に戻れないかもしれないという最悪の事態を想定しながらのスタートでした。

このような中でこの1年を乗り越えられたのも、ひとえに皆様サポーターのおかげです。社会全体が大きな経済的打撃を受ける中、学校や生徒のことを気遣いご心配くださり大勢の皆様からのご支援を賜りましたことに、理事一同を代表して、心より感謝を申し上げます。

どのような困難でも進化のチャンスと捉え、前進する力が試される時代です。これからも、生徒たちと共に我々もチェンジメーカーであり続けられるよう、果敢に未来を切り拓いて参りたいと思います。来年度も引き続き、皆様のご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。



発起人代表 谷家衛

2020年は、新型コロナウィルスにより引き起こされた今までに経験したことのない困難な状況に立ち向かう一年となりました。そしてまた、教職員、ご支援者、生徒たちの驚くべき努力に非常に感動した一年でもありました。

特に生徒達は、コミュニティが一丸となるよう連帯を働きかけ、世界で起きている分断を少しでも団結に向かわせるべく努力をしており、私自身、大いに刺激を受けております。彼らはまさに世界が必要とするリーダーになりつつあります。卒業生は、そのほとんどが大学へ進学しておりますが、同窓会組織を通じ、卒業後もUWC ISAKを活発に支え続けてくれています。彼らの溢れんばかりの感謝と善意を目の当たりにし、深く感動しています。

私は卒業生にとって第二の故郷となるUWC ISAKを支え続けてくださっている皆様に深く感謝するとともに、この学校と、チェンジメーカーたちの前途に、これまで以上に期待をしております。クライマックスはまだまだこれからです！引き続き、よろしくお願ひいたします。



校長 ロデリック ジェミソン

この1年は、文字通り筆舌に尽くし難い1年となりました。母国へ帰国した学生が7月に再入国を許可されたときの興奮、10月に日本政府が新しいビザの発給を開始すると発表された時のキャンパスの歓喜は、今も忘れることができません。しかし、2021年1月、少数の生徒が新型コロナウィルスに感染していることが確認され、事態は再び悪化しました。キャンパス封鎖や度重なる検査など早急に対策を講じ、皆の信じられないほどの忍耐力と、理事会、保護者、地元の方々からのサポートのおかげで、なんとかこの試練を乗り越えました。

最後は卒業生たちの最高の笑顔と共に終えることができたこの1年を振り返る時、最も印象に残っているのは、逆境の中でも私たちのコミュニティが常に力強く団結していたことです。学校の理念や私たちの信念が決して揺らぐことがなかったことです。それどころか、情熱とコミットメントがこれまでになく強くなり、未来が今まで以上に明るく見えるようになりました。どんな状況でも支えて下さるサポーターの皆様がいるという特別な環境を、認識しない日はありません。皆さまのご信頼に深く感謝申し上げます。



この一年間のふりかえり



2020.4 パンデミックへ立ち向かう

世界中のパンデミックは状況が一気に悪化し、2月、3月には次々と国境が閉まっていました。当校でもすぐさまこの事態に対応せねばならず、生徒たちを母国に帰国させる決断をしました。非常に難しく、感情的にも揺れ動いた時期でしたが、コミュニティ全体の努力のおかげで、大多数の生徒を母国へ帰国させることができました。



2020 夏 夏休みをキャンパスで過ごす生徒たち

例年であれば、6月には在校生がキャンパスを離れ、サマースクールが7月に行われますが、今年は初めて、新型コロナの影響でサマースクールがキャンセルとなりました。その代わり、母国に帰国できなかった40名の在校生がキャンパスで夏を過ごすことになりました。この間、センターの皆様より生徒たちに温かいご支援をいただきました。ありがとうございます。



2020.8 ISAKx 始動

世界のどこにいても他の学校に通っていても、土日にオンラインでUWC ISAKの教育プログラムを体験できるプログラムを始動しました。リーダーシップとソサエティ&ポリティックスの2コースからスタートし、満足度97%という予想以上のご好評をうけ、冬休みと春休み期間中のショートプログラムも拡張して開催いたしました。



2020.12 ウィンタースクール開催

サマースクール参加を予定していた生徒達向けに、緊急事態宣言の合間に縫うようにして、軽井沢にてUWC ISAKのプログラムを体験できる8日間のウィンタースクールを初開催いたしました。サマースクールと同様、リーダーシップやデザインシンキングの要素を盛り込み、冬休みをキャンパスで過ごす數十名の在校生がボランティアで参加することで多様性溢れる環境が実現でき、満足度100%という驚異的な結果に結びつきました。



2021.1 新校舎 The Accord Center (TAC) 完成

ファウンダーのお一人である本多均様による多大なるご支援のもと、初めての多目的ホールTACが完成いたしました。TACは可動式壁を導入した建築構造で、教室や演劇、展示スペースなど、多目的利用が可能な校舎です。完成後すぐにコミュニティの人気の活動場所となり、アートの展示会や映画祭、卒業式の準備会場などとして使われました。



2021.2 インターナショナルデー

2021年は、大変なチャレンジから始まりました。冬休み後、数名の新型コロナウィルス陽性が判明し、直ちに隔離寮を作り、学校は緊急ロックダウンとなりました。外との行き来を遮断、度重なる検査実施により、校内及び近隣地域の安全な環境を保つべく措置を取りました。大変な1ヶ月となりましたが、2月には安全な環境を取り戻し、ロックダウンも解除し、インターナショナルデーを実施できました。



2021.3 プロジェクトウィーク

生徒たちが自らの関心や問題意識に沿って企画するプロジェクトに没頭できるこの週は、いつも特別なイベントです。この春は移動が制限されたこともあり、スタートアップコンテストを実施いたしました。G10のリーダーシッププログラムの一環で、生徒達はグループになり、自らのアイディアや事業プランを発表し、起業家の方々に審査していただきました。入念に準備された発表に対し、審査員の皆様からもご意見を頂戴し、生徒達にとって貴重な学びとなりました。

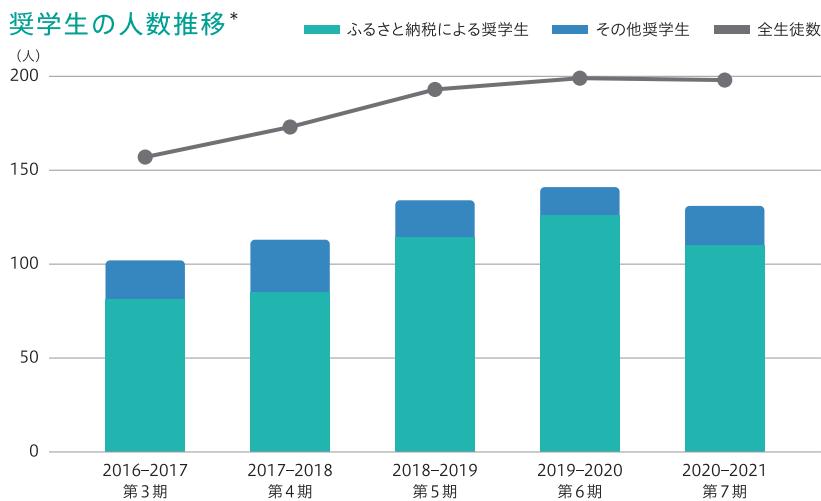


2021.5 卒業式

第5期生が真っ青な空のもと、UWC ISAKを卒業していました。この学年の生徒たちは、台風からコロナまで、度重なるピンチをチャンスに変え、逞しく成長を遂げました。特にコロナ禍では、激動的、しかし忘れられない一年半を過ごしました。この経験が、きっと将来、困難があったときに挫けず乗り越えていく強さに繋がっていくと信じております。

ご支援者の皆さまへのお礼及びご報告

当校では、全体の約7割の生徒に家族の経済状況に合わせた返済不要の奨学生を給付しております。グラフの通り、開校時からの柱となっているのは、ふるさと納税によるご支援です。2020年はコロナ禍で多くの皆さまが経済的に影響があったにもかかわらず、合計で330,337,000円ものご支援をいただきました(内、95%が軽井沢町より当校に支給されます)。誠にありがとうございます。8割の方々より毎年継続してご寄付頂いておりますことに、心より感謝を申し上げますと同時に、皆様のご信頼とご期待の大きさをひしひしと感じ、一同身が引き締まる思いが致しております。



* 奨学生はふるさと納税やその他ご支援により全額または部分奨学生を受けている生徒となります。



2020年会計年度 教育活動収支報告書	
項 目	金 額 (単位:百万円)
学生生徒等納付金	1,015.57
授業料、寮費、施設設備資金、入学金、IB資格取得料	1,011.83
入学検定料	3.74
寄付金	689.93
市町村補助金(ふるさと納税)及び地方公共団体補助金	431.58
一般寄付金	16.85
特別寄付金	239.05
現物寄付	2.46
その他	35.72
ウィンタースクール、ISAKx	18.62
雑収入	17.10
教育活動収入計	1,741.22
人件費支出	489.68
教育研究経費支出	641.83
奨学費支出(本校生徒)	492.29
その他支出	149.54
管理経費支出	189.48
奨学費支出(ウィンタースクール及び卒業生)	71.56
その他支出	117.92
減価償却	79.42
教育活動支出計	1,400.42
教育活動収支差額*	340.80

* 教育活動収支差額のうち、1億9千8百万円を寄付基金(Endowment Fund)**へ移動

** 当校は、中長期にわたり安定した奨学生制度を維持する目的で、毎年約2億円を寄付基金へ割り当てるよう最大限努めています。

ファウンダーおよびカタリスト・サポーターの皆様のご支援抜きには、この学校は今ここにありません。心から感謝申し上げます。ふるさと納税以外にも、毎年奨学金をご支援くださっている法人・個人の皆様、そして2020年は、新型コロナ対策緊急支援としてのご寄付や物資のご提供をくださった大勢の皆さまにも、深く御礼を申し上げます。

ファウンダー (ご支援順)		カタリスト・サポーター (ご支援順)	
谷家 衛	伊藤 友則	福武 純子	俞 梅
小林 繁肇・りん	山岸 広太郎	本多 均	藤武 貴尚
高橋 百合子	エアン ショー	小泉 洋二朗・光美	古川 淳
山本 公哉	宮澤 栄一	安東 泰志	島田 亨
柳沢 正和	中島 周	有田 浩之	佐山 展生
青井 理香	小泉 泰郎	岩崎 俊男・美紀子	柏木 齊
立石 文雄	一般財団法人 小川奨学財団	武田 洋子	吉田 あや子、佐々木 寛・雅子
林 秀彦・三千代	衣畠 秀樹	山口 典子	施 艺
河野 宏子	三宅 伊智朗	安済 聖司	マクナーニ ポール・真樹
居松 秀浩	本庄 竜介	木村 新司	川村 隆
小澤(兼信)ふみ子	鈴木 エドワード	蓑田 秀策	米日財団
ネルソン ブライアン	菅原 勇一郎	氷室 利夫	藤田 敏嗣
小柴 正浩	辻本 春弘	一般社団法人 野中インスティ	増田 宗昭
小島 勝	堀江 伸	テュート・オブ・ナレッジ	畠山 康・麻紀子
吉野 永之助	高山 健	株式会社 ホッピーミーナ	池田 祐久
加藤 元	佐浦 弘一	岡田記念会	角川 歩彦
井上 高志	公益財団法人 石橋財団	川鍋 一朗	青山 健
田中 将太郎	佐護 勝紀	諸藤 周平	菅原 貴弘
村田 貴士	岩倉 正和	三宅 卓	渡邊 洋行
高野 真	神山 治貴	ユナイテッド・マネージャーズ・	志村 晶
夏野 剛	小林 正忠	ジャパン株式会社	山本 真一
水谷 浩明	小林 一俊	永瀬 昭幸	有馬 友樹・有馬 誠
川田 尚吾	マニヤン ジャック・麻里子	高井 洋子	橋本 幸一郎
佐藤 輝英	加治ファミリー	末広 真樹子	株式会社みずほフィナンシャルグループ
松木 光平	佐藤 茂	藤武 廉三	林 竜也
出井 伸之	武田薬品工業株式会社	吉澤 信司	株式会社バイキング
北城 格太郎	長谷部 泰三	内山 幸樹	玉川 慧
井上 智治	奥本 真一郎	分林 保弘	ゴヴァース 健二

本校奨学金

安東泰志奨学金
伊藤友則奨学金
木村新司・紗緒理奨学金
小杉明奨学金
ゴウ奨学金
佐藤茂奨学金
末広真樹子奨学金
福武純子奨学金
本庄奨学金
いちごアセット奨学金
ゴールドマン・サックス
ニューバーガー・バーマン奨学金
ホッピー奨学金
YKKホールディング・アジア奨学金
W&M 太陽光奨学金
W.L.S. Spencer Foundation

サマースクール奨学金

HSBCグループ奨学金
キャニオン・キャピタル・ジャパン奨学金
箴言16:16 奨学金
野村ホールディングス奨学金
モルガン・スタンレー
HOPE奨学金
三井住友信託銀行奨学金

ゲストスピーカーセッション

株式会社エイブル

大学進学奨学金

日本財団奨学金
シェルビー・ディビス奨学金

プログラムサポート

株式会社みずほフィナンシャルグループ

ご支援、ありがとうございます。



奨学生の声（イサミン / シリア Class of 2022）

母国シリアは戦争中のため、学校のカリキュラムはほとんど時代遅れです。私たちはカリキュラム全体を丸暗記し、テストで良い成績をとるよう期待されるだけで、創造的または論理的な思考を学ぶようなことはありませんでした。UWC ISAKでの学びは、リサーチやプロジェクトなど全てが新しく、夢のような体験です。英語での学びは初めてで、初めは辛さしかありませんでしたが、先生、周りの友人のおかげで壁を乗り越え、母国では考えられなかつた学びができていること、そして出会いに感謝しかありません。



奨学生の声（ジュンペイ / 日本 Class of 2022）

中学校では、学ぶことが全て受け身で、自主性が存在していないと感じていました。そんな教育に疑問をもち、学校をやめて、独学をしていました。UWC ISAKとの出会いにより、自分にまたワクワクする感情が戻ってきました。昨年「第二次世界大戦について、どうして日本と韓国はここまで見方が違うのか」という自分の疑問から、両国の生徒に、違いを乗り越え話し合う機会を提供するプロジェクトを始めました。このプロジェクトは、「探究」について発表する高校生の英語大会で、Changemaker Awardという賞を受賞しました。これは自分だけでは勝ち取ることができなかった賞であり、一人で学ぶだけでなく、自分の学びを多様な人たちと共有し、発展させていくける貴重な体験となりました。このような環境に来れたことに、心から感謝しています。



卒業生の声（メリモ / タジキスタン Class of 2021）

私がUWC ISAKに来た一番の理由は、社会にポジティブな変化を起こせるような人間になりたかったからです。ここでの2年間は私の人生を変える貴重な体験でした。私はUWC ISAKに来る前、一人では社会を何も変えられないと思っていた。でもそれは全く違いました。かけがえのない経験を得られたからこそ、この経験をもっと多くの生徒に伝えていきたいという気持ちが芽生え、それが原動力となり、自ら行動を起こせるのです。私の母国では教育を受けられない子供が沢山います。そのような社会を絶対に変えたい…。大学に進学しますが、母国の社会が変わるよう、周りを巻き込んで活動は続けていきたいと思います。このような自分に成長するチャンスをくださった多くの皆様、本当にありがとうございます！



卒業生の声（ガブリエル / フィリピン Class of 2020）

コロナ禍に卒業し、母国フィリピンに帰った自分にとって、この一年間は決して平坦な道のりではありませんでした。マニラで自己隔離を経て実家へ帰るまでに、新型コロナの影響により市内が直面している様々な課題を目につきました。その後、UWC ISAKで学んだデザインシンキングの技法を通じ解決策を見出し、接触管理アプリの開発に成功しました。UWC ISAKでは常に他人に共感することを求められましたが、開発中、他人を助けたいと思うと、内なる力を総動員して取り組んでいる自分に気がつき、驚きました。UWC ISAKの教育は、自分の考え方と世界の見方にとってつもない影響を与えたしました。リーダーシップは実践により培われること、何かを成し遂げるにはレジリエンスが大切なこと、世界中の仲間と過ごした日々が、他人に共感し、理解し、思いやることの大切さを教えてくれました。様々な価値観にふれて自分は成長しましたし、これから逆境の中でも希望を持って前進していきます。最高の高校生活でした！ありがとうございます！



アマゾンウィッシュリストのお礼

緊急支援要請に応えて、全国からアマゾンウィッシュリストを通じた様々な物資のご支援が届くたびに、生徒たちは「これほどまでに全国のたくさんの人たちが自分たちを気にかけてくれているのか」と、中には目に涙を浮かべて受け取らせていただいておりました。心から感謝申し上げます。



冬休み中のご支援のお礼

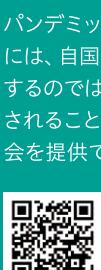
例年ならクリスマス休暇で生徒は自宅へ帰りますが、この冬は、渡航に伴う検査や自粛期間の影響で、多くの生徒がキャンパスに残らざるをえませんでした。多くの皆様からのご支援により、仲間とともに穏やかな日本の年越しを迎えることができました。ありがとうございました。



プロジェクトウィークのお礼

生徒達のプロジェクトウィークが充実した学びとなりますのは、企業の皆さまからの有形無形のご支援のおかげです。いつも生徒達へ新しい視点や学びの機会を提供してくださり、ありがとうございます。

学校法人ユナイテッド・ワールド・カレッジISAKジャパン
〒389-0111
長野県北佐久郡軽井沢町長倉5827-136
<https://uwcisak.jp/jp/>



← ふるさと納税のご寄付はこちらから

 **UWC** ISAK JAPAN